

## 平成19年度実施事業 事業評価シート

<b>事業名:</b>	パワーリハビリテーション事業	2-23
・運営の方法(1:直営、2:民間委託、3:補助、4:その他)	複数回答可	1
・事務の分類(1:自治事務、2:法定受託事務)		2

担当部課	保健福祉部地域包括支援センター	直通電話	72-7017
担当部長	鎌田 英暢	担当課長	田森 正廣
		担当者	内藤 義則

1 事業のアウトライン			
(1)事業概要及び交付金額等の積算根拠	筋力トレーニングマシン等を使用した虚弱高齢者等筋力向上トレーニング(介護予防事業)を実施する。		
(2)事業開始年度	平成15年度	(3)事業終了年度	未定
(4)総合計画での事業体系	テーマ等	2 健康でしあわせに暮らすまち	
	施策項目(大)	(2)高齢者福祉の充実	
	施策項目(小)	自立支援サービスの充実	
	施策コード	20201	

2 事業の内容	
(1)事業の目的 何のために	特定高齢者の介護予防
(2)目指す成果 何をどんな状態にする(何がどんな状態になる)ように	特定高齢者に対しトレーニングを実施することで、身体機能の向上を図り、日常生活動作の改善や社会活動の拡大に結びつけることで、要介護・要支援状態になることを予防する。
(3)事業の方法 どんな手段を講じるのか	マシンを使用した筋力トレーニングとバランストレーニングを週2回で1クール計24回実施する。
(4)19年度に改善した事項、重点的に取り組んだ事項	
(5)事業の背景・社会状況・他の類似事業など	平成17年度までは老人保健法等に基づき実施してたが、平成18年度から地域支援事業として実施。
(6)事業の立案や実施における協働の視点	

3 事業に投入した行政資源				
区 分	H17	H18	H19	H20予算
(1)直接事業費(千円)	1,204	1,188	1,188	1,371
(2)その他の間接経費(千円)	0	0	0	0
(3)従事正職員の人件費(千円)	1,726	994	897	/
総事業費((1)~(3)の合計:千円)	2,930	2,182	2,085	/
事務に従事した正職員延べ人数	0.20	0.12	0.10	/

4 交付団体の予算・決算 (単位:千円・%)											
入	区分	H17	H18	H19	H20予算	支	区分	H17	H18	H19	H20予算
	市補助金等(A)										
	計(B)	0	0	0	0		計	0	0	0	0
	(A/B)										

5 事業活動の結果 (単位:千円・%)					
活動指標名		H17	H18	H19	H20
実参加者数(人)	目標値	36	36	36	36
	実績値	32	17	19	/
	達成率	88.9	47.2	52.8	/
参加者の参加率(%)	目標値	80	80	85	85
	実績値	78.8	88	84	/
	達成率	98.5	110.0	98.8	/
	目標値				
	実績値				
	達成率				

6 事業の成果 (単位:千円・%)	
-------------------	--

成果指標名		H17	H18	H19	H20
身体機能評価6項目(握力、片足立ち、10m歩行他)中1項目以上の改善を認めた者の割合	目標値	100	100	100	100
	実績値	100	100	100	
	達成率	100.0	100.0	100.0	
QOL(生活の質)評価スケールにおいて改善を認めた者の割合	目標値	60	60	60	60
	実績値	75	69	67	
	達成率	125.0	114.7	111.2	
	目標値				
	実績値				
	達成率				

7 事業の観点別評価 担当課長が評価します。				
(1) 必要性		(4) 有効性		
ア 市民ニーズ	1 大きい 2 普通 3 小さい	2	ア 施策との関連 事業の成果と施策の成果とに関連があるか	1 密接な関連がある 2 関連がある 3 関連はほとんどない
イ 市の関与	1 行政にしかできない 2 民間等でもできる 3 民間等でやるべき	2	イ 成果 事業の成果は目標を達成しているか	1 すべて達成している 2 一部達成している 3 達成していない
(2) 効率性			ウ 事業内容 目指す成果の実現を図る上で、今の事業内容は適当か	1 極めて妥当 2 一定の妥当性あり 3 妥当性が低い
ア コスト削減	1 不可能である 2 難しい 3 可能である	2	(1)~(4)の評価ポイント合計 総合評価の参考にしてください。	
コスト削減は可能か				
(3) 公平性			7~11	A or B
ア 受益者負担	1 不可能である 2 難しい 3 可能である	2	12~15	B or C
さらなる受益者負担は可能か			16~21	D or E
<b>14</b>				

8 課長評価 担当課長が評価します。	
(1) 平成19年度事業の総合評価	
B 評点の意味 (A:極めて良好、B:良好、C:可も不可もない、D:問題がある、E:大きな問題がある)	身体機能が改善されており、適切に実施されている。
(2) 今後の方向性・課題	特定高齢者実態把握事業とのタイアップにより、介護認定者が増加傾向にある中、本事業は特定高齢者が要介護、要支援状態になることを予防することを目指し実施しており、参加者に相当数の改善が見られることから、本事業を継続していく。
(3) 平成21年度の方向性	
*:担当課長	事業内容
	現状維持 一部見直し 大幅見直し
事業規模	拡大方向 現状維持 縮小方向 統合 休・廃止
	* 現状維持

↓ ここまで担当課長が記載した上で、パブリックコメントを実施し、市民意見を募集します。

9 課長評価に対する市民意見

10 部長(市長)評価 課長評価に対する市民意見を踏まえて、部長職(もしくは市長)が評価します。	
(1) 平成19年度事業の総合評価	
B 評点の意味 (A:極めて良好、B:良好、C:可も不可もない、D:問題がある、E:大きな問題がある)	特定高齢者に対する身体的な機能の維持・向上に向けた運動として適切に実施している。
(2) 今後の方向性・課題	参加者の改善状況からより多くの高齢者の参加に向けた手法の検討を行う。
(3) 平成21年度の方向性	
:担当部長(もしくは市長)	事業内容
	現状維持 一部見直し 大幅見直し
事業規模	拡大方向 現状維持 縮小方向 統合 休・廃止